

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒140-0002  
 住 所 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー 27階  
 氏 名 サンアロマー株式会社  
 代表取締役社長 山田 一成 印  
 (代理人)川崎工場長 椋木 伴弘  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンアロマー株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区千鳥町13-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	プラスチック製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	13,320	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### (1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

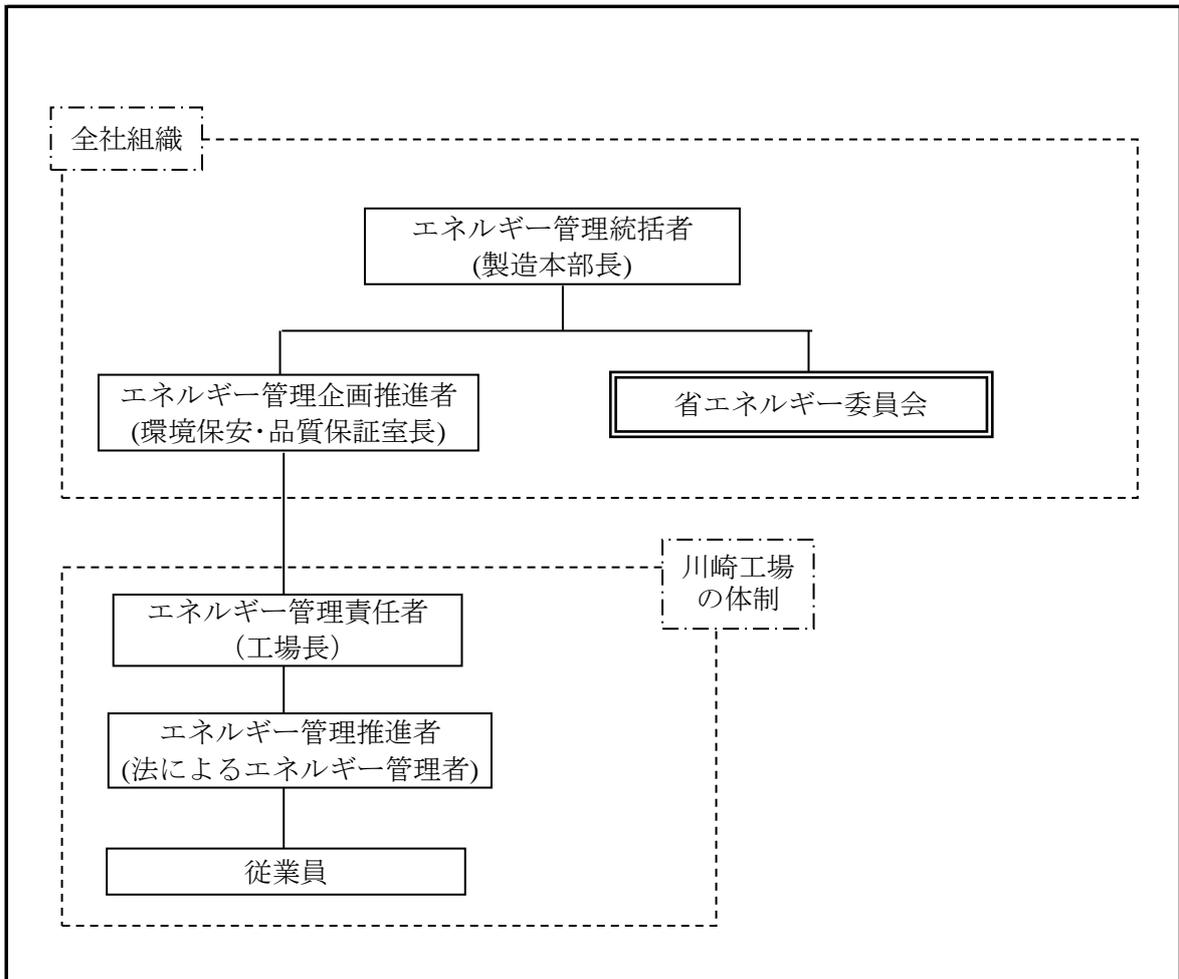
1. 事業者全体  
 (1) 当社の場合はエネルギー由来の温室効果ガスが対象となるため、省エネルギー活動を通じて温室効果ガス排出量の削減を達成すべく、省エネルギー委員会による組織的な取組活動を継続的に推進する。  
 (2) レスポンシブル・ケア(RC)活動の年度目標に省エネ目標を定量的に定め活動に取り組む。

2. 市内事業者(川崎工場/研究開発本部)  
 (1) 川崎市の計画期間(3年間)と省エネ法・温対法報告書に基づく中期目標の整合性をとり、内容を実施する。  
 (2) RC活動、ISO14001などで規定した目標を実施する。  
 (3) 上記等の結果のチェックを行い次年度以降の計画に反映する。

#### (2) 削減対策実施状況の適切な進行管理(PDCAサイクル)を行うための方針

① 全社RC行動計画に基づいて工場の省エネ目標設定を行い、年度計画を策定する。具体的な実施項目等については半年毎に開催する省エネルギー委員会で確認共有する。  
 ② 年度計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量および排出量の実績管理を行い、予算管理をも含めて運転・設備保全上での省エネ課題を整理し、年度計画の見直しを行う。  
 ③ 省エネ委員会およびRC行動計画の中間・年間評価にて省エネ及び排出量削減効果の検証および評価を行う。また、その評価により計画の見直しを行う。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2021 年度	
目標	年度	2024 年度	
基準	排出量	(実) 24,957 (調) 24,957 t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
目標	排出量	(実) 22,707 (調) t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
削減量		(実) 2,250 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
内訳	対策実施による削減量	(実) 220 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
	上記以外の削減量	(実) 2,030 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 9.0 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量		生産数量	
原単位の単位		t-CO <sub>2</sub> /t	
基準年度の値		0.1716	
目標年度の値		0.1702	
削減率		0.8 %	%

ウ 目標設定に関する説明

<p>削減目標の基準は排出量原単位とした。                  プラントの大規模な改造などによる大幅な改善は行えないため、川崎工場の排出量原単位の削減目標を3年間で1%とした。特に設備運転停止時の無効用役の削減を主に、スチーム使用の管理、大型電動機器の運転管理を継続・強化することで削減を達成する。                  研究開発本部については、用役を購入している親会社との契約により固定値であるが、生産量の減少により原単位は増加し、全体としては0.8%の原単位削減となる。</p> <p>排出量については生産量が基準年度より低下するため、対策実施以外での削減量が大きくなる。</p>
---

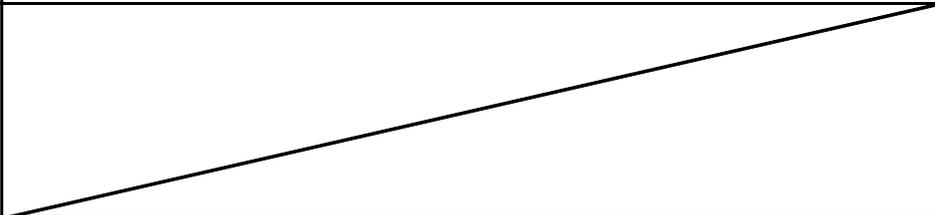
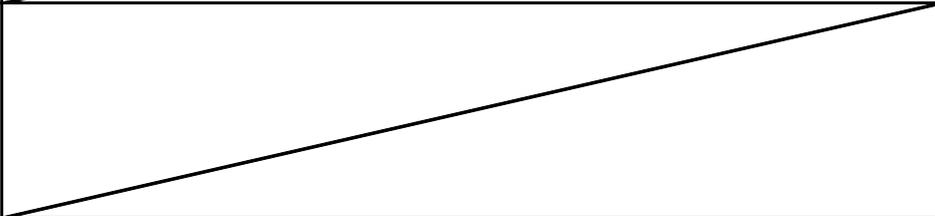
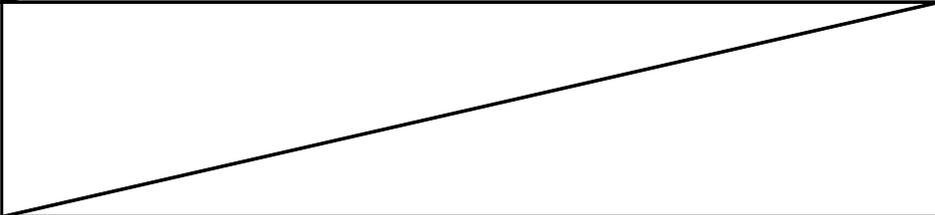
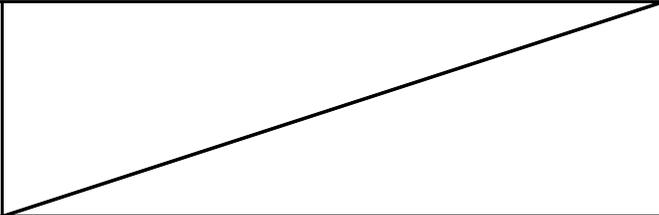
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	1) 管理標準、保全計画に基づくエネルギー使用設備の運転管理 2) 熱使用設備 2-1) スチームトラップの検査、補修の実施 2-2) 保温、保冷の補修、強化の実施 3) 電動機使用設備更新時の高効率製品の採用 4) 空調更新時のエネルギー効率改善 5) 工場照明のLED化
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場の大型熱交換器を更新し、運転効率を改善した。</li> <li>・ 工場の運転方法(温度圧力等)の見直しを実施し運転効率を改善した。</li> <li>・ 工場のスチームトレースを一部電気トレースへ変更しエネルギー原単位を低減した。</li> <li>・ 工場の押し機表面(高温部)への遮熱塗装を行い、表面からの熱損失を低減した。</li> <li>・ 工場照明の一部LED化を実施した。(継続実施)</li> <li>・ 工場のスチームトラップを外注にて点検補修し、スチームトレースのロスを低減した。(継続実施)</li> </ul>
---

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	千鳥自動倉庫屋上への太陽光発電設置について検討を実施し、2025年設置として将来計画に組み込んだ。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	千鳥自動倉庫屋上に281.4kwの発電パネルを設置(562,800kwh/年見込み、自家消費)	2025年設置予定

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入制度の対象商品を優先して購入する。</li> <li>・廃棄物の分別化・再利用化を継続する。</li> <li>・製品生産時のエネルギー由来CO2排出量を低減することで、製品ライフサイクルとして、より環境負荷の少ない製品を顧客に提供する。</li> </ul>
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量

(実)	24,957	t-CO <sub>2</sub>
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

13,320	KL
--------	----

ウ 事業所の数

2
---

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
サンアロマー株式会社 製造本部 川崎工場	川崎市川崎区千鳥町 1 3 - 1	24,435 t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>